

## ■地域の記憶をいかにして残すか

### —福岡市中央区ロータリー交差点改修整備事業—

福岡大学 助教 石橋知也

#### 1. はじめに

本稿は、福岡市中央区の清川 172 号線において行われたロータリー交差点改修整備事業を対象に、事業経緯ならびに検討過程に加え実際の整備状況について報告するものである。また整備事業の振り返りによってみえてきた事業の特徴について論じる。

#### 2. ロータリー交差点改修整備事業の概要

##### (1) 事業実施の経緯

福岡市は、市内の道路整備の指針として 2009 年に「福岡市道路整備アクションプラン 2011」を策定しており、その基本方針の一つとして『すみよいまち「ふくおか」をささえる道づくり』を掲げ、「通学路に指定されている道」等を優先的に整備している。これをうけ、以前より「歩道の勾配や段差」「街路樹の根上がり」「大雨時の水害」等の問題が指摘されていた清川 172 号線において、安全かつ快適な歩行空間への改善を目指し、2011 年度から 3 年計画で整備がおこなわれることとなった。清川 172 号線は全長 860m の片側 1 車線道路で、前述したロータリー交差点を有しており道路整備に連動した何らかの改修が見込まれていた。

##### (2) 事業の体制と方針

事業は、福岡市中央区地域整備課と建設コンサルタントによって推進され、筆者の所属する福岡大学景観まちづくり研究室が協力する体制をとっている。福岡市は、道路整備に際して、ロータリー交差点を存続させるか否かを決定する必要があったため、清川 172 号線の沿道住民の方々に参加を促すかたちで複数回のワークショップ（以下、WS）を開催する方針とした。

事業の工程は、2010 年度に 4 回の WS ならびに基本設計をおこない、2011 年度に道路・交通の両管理者間の協議をすすめ、その後 3 区間にわけて着工されている。なお、ロータリー交差点区間は 2014 年 5 月に竣功した。

#### 3. 清川ロータリーワークショップの開催

清川ロータリーWSは、2010 年 12 月から 2011 年 3 月にかけて計 4 回開催され、沿道住民の参加のもとロータリー交差点の整備方針について検討がおこなわれた。WS の企画・運営は福岡市・建設コンサルタント・大学の三者協働でおこない、交通管理者の立場として福岡県警察中央警察署の担当官にも WS に同席していただいた。また毎回の WS の内容をニュースとしてまとめ、地区住民の方に配布して参加の呼びかけと情報共有を図った。

##### (1) 第 1 回ワークショップ

第 1 回 WS は 2010 年 12 月 20 日に開催され、テーマは「清川ロータリーを知ろう」であった。ここでは、事業主である福岡市が清川 172 号線の道路整備事業の内容を説明し、大学はロータリー交差点の歴史調査の結果ならびに交差点交通調査の結果を報告した。加えてロータリー交差点を日常的にみている住民からの意見を集約していった。その結果、ロータリー付近での交通事故など安全面での不安があるものの、ロータリーが地域を代表する存在であり歴史性も有していることをふまえ、「ロータリーを存続させた交差点」として整備することが合意された。

##### (2) 第 2 回ワークショップ

第 2 回 WS は 2011 年 1 月 17 日に開催され、テーマは「改修計画の内容を検討しよう」であった。ここでは、ロータリー交差点の問題点を共有し解決策を話し合い、改修の方向性を検討した。その結果、自動車に

対してロータリーの通り方を明示すること、自転車通行に対する配慮をおこなうこと、歩行者優先の整備をおこなうこと等の意見を得ることができた。

### (3) 第3回ワークショップ

第3回WSは2011年2月23日に開催され、テーマは「改修計画の詳細を検討しよう」であった。ここでは、第2回WSでの意見をふまえたロータリー交差点改修デザイン案を3つ提示し、それぞれに対して賛同できるところと気になるところについて意見を集約していった。その結果、3案中の1案に絞るのではなく、各案のもつ良い点を重ね合わせることで最終デザイン案を導出する方向性が合意された。

### (4) 第4回ワークショップ

第4回WSは2011年3月23日に開催され、テーマは「改修計画を確認しよう」であった。第1回から第3回までのWSで検討した内容を基に作成されたイメージ図を用いて、改修計画の確認がなされ最終デザイン案で整備されることが決定した。また今後の工事工程の共有もなされている。

## 4. ロータリー交差点改修整備の詳細

まず、整備前から指摘されていたロータリー交差点の課題について整理する【写真1】。第一に、ロータリーへの接触回避である。沿道住民からもこれまでの交通事故について多くの意見が挙がった。第二に、ロータリーに面する歩道付近への駐車車両の排除であり、ロータリー空間内での円滑な車両通行を駐車車両によって妨げることは避けなければならない。第三に、交



写真1 改修整備前のロータリー

差点に進入する車両の速度を減速させることである。そして第四に、ロータリーを通行する歩行者や自転車の移動距離をできるだけ短縮することであった。

次に、これらの課題を解決することを念頭に改修整備されたロータリー交差点の要点を以下に示す。

### (1) ロータリーの視認性と存在感の向上

ロータリーの形状については、従来のものよりも高くかつ直径を大きくつくることによって、視認性を向上させている【写真2】。また、ロータリー立ち上がり部から外側に約70cmのピンコロ石舗装を設け、道路舗装とロータリーとの間の緩衝帯として機能するようにした【図1】【図2】。これはロータリー交差点の設計上の重要な工夫点であり、車道の舗装とは色や材質を変えることで、通過車両を減速させる効果があるとされる。夜間の対策としては、反射板を設けることにより高い視認性を確保することとした。なお、反射板設置について、ロータリーの造形にできるだけ影響を与えないよう、細長い棒状のものを採用し必要最小限の本数に留めている。

### (2) ロータリー交差点周辺の歩道部の拡幅

従来の歩道部をロータリー中心方向に向けて拡幅し、歩道に沿うように駐車する車両が発生しないようにした【図3】。加えて、歩道部に縁石を立ち上げると同時にポール形式の車止めを配すことによって駐車車両の歩道への乗り上げも防いでいる【写真3】。縁石と車止めの両方を用いたのは沿道建物への車両の衝突を防ぐ意図も含まれている。このことも沿道住民の過去の経験から挙げられた意見を踏まえた対策のひとつである。



写真2 改修整備後のロータリー

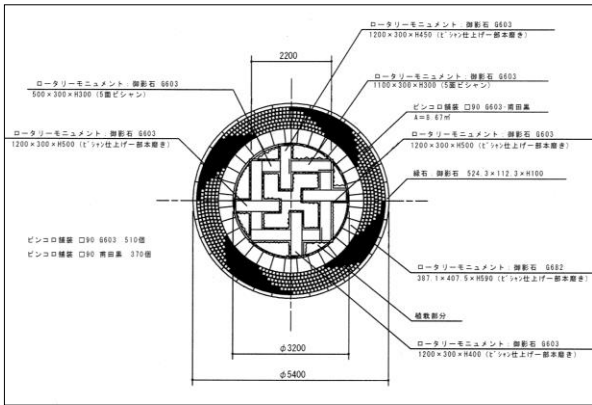


図1 ロータリー平面図 (福岡市提供の資料より)

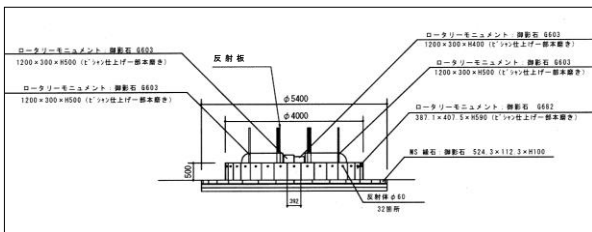


図2 ロータリー正面図 (福岡市提供の資料より)

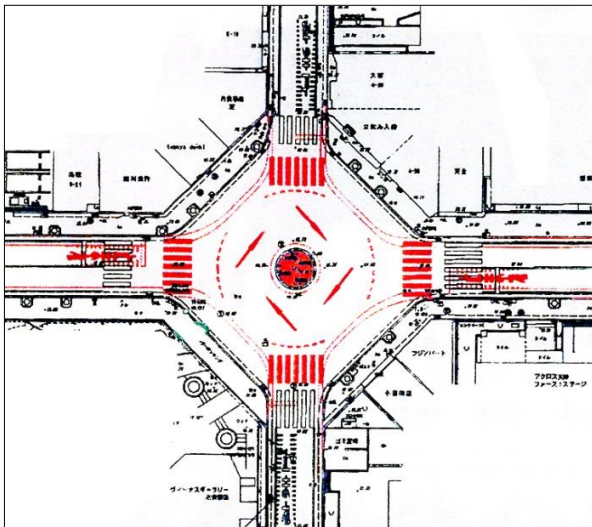


図3 整備前後での路面標示の変更(整備後を赤い線で表現している) (WS 資料より)

(3) ロータリー改修に連動させた路面標示の変更

ロータリーに進入する車両速度を逡減させるために、交通量の比較的多い南北方向の交差点入口部に減速標示を施している【写真4】。一方で、歩行者や自転車の交差点での移動距離が短くなるように、横断歩道の標示位置を従来よりもロータリー中心側に4箇所全て移動させている【図3】。



写真3 歩車道境界には縁石と車止めを設置



写真4 交差点入口部に施した減速標示



写真5 上方からの交差点全景

(4) 歴史を継承し地域のシンボルとなる造形

ロータリー中心部には石材をくみ上げたモニュメントを設置している【写真5】。この造形は、WSにて話題となった交差点の歴史に由来している。大正時代に本地区が開拓されたとき以来、隅切りされた交差点の

存在が当時の測量地図からも確認でき、この交差点にはかつて井戸が存在していたなど生活に密着した交流の場であったことが把握された、という歴史調査結果に基づいている。

## 5. まとめ(事業を振り返って)

以上駆け足ではあったが本事業の経緯から WS の過程、さらに出来上がったロータリーの詳細について述べてきた。WS のすすめ方については特別に変わったことをしたわけではないが、特筆すべき点としては、交通管理者である警察の担当官に同席いただけたことであろう。これによって、交差点改良に関する「できる/できない」の判断が WS 中に可能となり、WS における議論の焦点が「単なる理想を語ること」から「実現可能な方向性の模索」へと絞られたことは本 WS プロセスの成果であるといえる。事前に福岡市が福岡県警察と連携をとり、WS への参加を促していたことは評価されるべきであろう。一方、本 WS での合意形成に着目すると、ロータリー交差点を存続させるか否かを決定する重要な場面を第 1 回に設定し、ロータリーの歴史・交通調査等といった準備を十分におこなったことが事業そのものの推進に寄与したといえる。特に、地域資源(清川にとってのロータリー)を保存活用する際に歴史的な価値付けが大きく影響を与えた。これより、地域の抱えている資源の価値や状況を客観的に説明できる第三者の立場(今回はたまたま大学研究室が担当)からの説明は重要な意味をもつことが改めて確認されたと考える。本事業が近年話題となっている「ラウンドアバウト」のひとつの参考事例として取り上げられることを願う次第である。本稿に関連する既報の文献として「小西圭介, 石橋知也, 柴田久: 道路改修計画における地域資源の活用に関する研究—福岡市中央区清川ロータリーを事例として—, 平成 22 年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集, IV-42, pp.589-590, 2011.3」を紹介し結びとする。

(本稿をまとめるにあたり、福岡市中央区地域整備課ならびに株式会社アーバンデザインコンサルタンの担当各位に取材協力をいただきました。ここに記して謝意を表します)

(2014 年 12 月入稿)

## 第 4 回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日 時: 平成 26 年 10 月 17 日 (金) 15:00~16:30

場 所: 天神西茂ビル 6 階 602 号室

出席者: 外井哲志, 坂井猛, 橋本信幸, 吉武哲信, 内田智昭, 大枝良直, 加知範康, 辰巳浩, 堤昌文, 永村景子, 日暮光一郎, 松永千晶, 箕浦永子, 山下三平, 吉城秀治 (15 名)

### 議事内容

#### 1. 前回議事録の確認 (外井)

- ・事前メール審議に基づき、前回の会議内容を確認した。

#### 2. 理事会報告 (9 月 29 日分) (外井)

- ・平成 26 年度第 6 回理事会 (9/29) の資料を用いて報告がなされた。

#### 3. 平成 26 年度支部主催シンポジウムについて (吉武)

- ・別途資料に基づき、シンポジウムの企画案「(仮)国際観光からの地域活性化～多様な旅行者に対応したおもてなしを通じて～」について日時・会場・講師およびパネラーが提案され、承認された。
- ・資料代の徴収について、参加者多数で余剰が出る場合には、講演者の謝金を増額する(支部会計には入れない)、との方針にて承認された。
- ・シンポジウムの聴講者は自治体、事業者、など幅広く需要を想定した上で、興味を示す関係者を集客できるよう PR 方法、PR 先を今後検討することとした (PR 先の候補; 九州風景街道の関係者、観光関係者、外国人観光客を多く受け入れている自治体、クルーズ船が来航する自治体(長崎・宮崎・鹿児島), など)。

#### 4. 支部活動の検討; 支部研究発表会について (吉武)

- ・別途資料に基づいて発表会開催の可能性について提案、議論がなされた。
- ・九州支部では研究発表会の代わりに、ポスターセッションが設置された経緯が確認された。
- ・支部シンポジウムと併せて開催とした場合、支部シンポジウムの時期が固定されるため年間スケジュールが立てにくくなるとの指摘がなされた。
- ・Proceedings を作成して実績と出来るようにする、

博士学生が研究初期に他大学の研究者からアドバイスを  
得る機会とする、など支部内で発表するメリットが必要  
であるとの指摘がなされた。

- ・支部総会の開催に併せて実施、ポスターセッションは  
継続、博士学位取得者のお披露目として行う、との方針  
にて、引き続き検討することとなった。
  - ・支部総会当日は、午前中の時間帯も含め、総会・幹事  
会・ポスターセッション・研究発表会・まちづくり賞表  
彰式を実施する方向で、引き続き具体的な検討を行うこ  
ととした。
5. 「支部ニュース」(10月発行分)(箕浦)
    - ・別途資料に基づき、「支部ニュース」(10月発行分)に  
ついて紹介された。
  6. 「支部だより」(10月号)(永村)
    - ・別途資料に基づき、「2014年度の支部だより(「都市計  
画」)」の方針と予定および「支部だより」(10月発行分)  
について紹介され、承認された。
  7. 名義後援について(坂井)
    - ・別途資料に基づき、名義後援依頼(2件)が提案され、  
2件とも名義後援が承認された。
  8. 会計報告(内田)
    - ・別途資料に基づき、9月末時点の出納報告がなされ、  
原案どおり承認された。
  9. その他(箕浦)
    - ・別途資料に基づき、著書紹介の受入について、これま  
での対応や受け入れを行う場合の注意点について指摘が  
なされた。
    - ・受入のルールを含めて検討すること、支部として何を  
広報するかを含めて議論すること、が今後の検討課題と  
なった。

---

## 第5回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成26年12月19日(金) 15:00～16:30

場所：天神重松ビル3階302号室

出席者：外井哲志、橋本信幸、吉武哲信、伊東博史、  
内田智昭、辰巳浩、趙世晨、堤昌文、永村景子、山下  
三平、吉城秀治(11名)

## 議事内容

1. 前回議事録の確認(吉武)
  - ・事前メール審議に基づき、前回の会議内容を確認した。
2. 平成26年度支部主催シンポジウムについて(吉武)
  - ・資料に基づいてシンポジウム内容、準備状況の説明がなされた。
  - ・前回提示した企画からの変更点(パネリスト追加、開始時間の30分前倒し)について説明があった。
  - ・来年度のシンポジウムは全国大会(宮崎市開催)に併せて、特別セッション設ける、現場エクスカッション等を検討したい。
3. 研究分科会の応募状況(堤)
  - ・応募期間を延期して22日に再応募(再応募締切1月16日(金))を行うことで承認された。
  - ・審査員は土木分野は外井支部長、吉武幹事長、堤幹事、建築分野は坂井副支部長、趙幹事、橋本幹事、とする。
  - ・2月6日幹事会での採否決定に向け、審査日程は資料の延期案にて進めることで承認された。
4. まちづくり賞の応募状況(趙)
  - ・現在1件応募済。
  - ・そのほか複数件の問い合わせがあるため、応募は増えると思われる。初回なので、なるべく積極的な応募を再度、呼びかけてほしい。各地域の幹事には再度、該当事例がないか、推薦を依頼する。
  - ・3件程度を表彰予定である。1月中旬ごろ、審査を行いたい。
  - ・選考委員長は吉武幹事長とする。
  - ・審査基準がまだ決まっていないため、既に実績のある関西支部の審査基準等を参考にして検討する。
5. 支部活動の検討；支部研究発表会(吉武)
  - ・支部研究発表会の実施検討について、資料に基づいて説明がなされた。
  - ・現在実施しているポスターセッションの拡充の可能性を検討することとなった。北海道支部の実施方法を参考に、午前にポスターセッションを実施し、その中から優秀賞受賞者には午後に再度、全体発表の場を設ける案を検討することとなった。
  - ・会員著書については、支部ニュースでは紹介せず、

Who's whoで紹介していただくこととする。

6. 支部長賞(永村)
  - ・1月中旬に学科主任宛に依頼状を発送予定である。  
学科主任名での推薦をお願いします。
  - ・ポスターセッション(PS)の規定を再度確認し、PSへの応募が活発になるよう、必要に応じて応募条件の緩和を行う。
7. 支部だより(永村)
  - ・資料に基づいて支部だより(12月分)について報告がなされた。
8. 事業計画(内田)
  - ・支部発表会の開催有無等で事業計画を変える必要がある、予算編成の都合上、全国大会時に支部主催シンポジウムを開催するかどうか、早急に決める必要がある、との説明がなされた。
  - ・全国大会時に企画を設ける場合は、宮崎への幹事旅費等が必要となる。
  - ・来年度予算は、支部に配分される総額のみ決定している。
9. 会計報告(内田)
  - ・資料に基づいて現状の報告がなされた。
10. 名義後援(吉武)
  - ・資料に基づき「日本風景街道大学」の名義後援依頼について説明があり、承認された。
11. 理事会報告(12月8日分)(外井)
  - ・平成26年度第8回理事会(12/8)の資料を用いて報告がなされた。
12. その他 支部総会の日程について(外井)
  - ・当初の予定通り、平成27年度の支部総会は4日(土)に開催することで決定した。

---

#### ■支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。各種イベント(シンポジウムや講演会等)のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【公益社団法人日本都市計画学会九州支部事務局】

TEL& FAX : 092-802-3435

E-mail : cpj-q@doc.kyushu-u.ac.jp